

活動成果報告書

令和4年度（第26回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

‘こころのサポーターとよなか’をめざした体制づくり

グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名)

豊中市保健所

代表者：林 克人

勤務先：豊中市保健所

所 属：健康医療部 保健予防課 精神保健係

所在地：〒561-0881

大阪府豊中市中桜塚4-11-1

TEL：06-6152-7315

FAX：06-6152-7328



◇活動方針

世界精神保健調査では、我が国の精神障害へ罹患する生涯有病率が22.9%であり、精神疾患は誰でも罹患しうることが報告されている。豊中市は平成29年3月に豊中市メンタルヘルス計画を策定し、ネットワーク会議と専門部会の構成機関で協働を推進し、メンタルヘルスリテラシーの向上のための取り組みを重ねている。今般、新型コロナウイルス感染症に係るこころのケアの充実が求められている中、平時からのこころの健康への対策や普及啓発は急務であり、豊中市においても自殺者数、未遂者支援事案件数も増加しており、豊中市全体での取り組みが重要である。そこで、市民、事業者、全ての市職員等が‘こころのサポーターとよなか’研修を経年的に受講し、スキルアップする体制を構築することで、心理、社会的問題や生活上の問題、健康上の問題を抱えている人などに気づき、適切にかかわり、専門性の有無にかかわらず、それぞれの立場でできることから進んで行動を起こせるようになることを目的とする。



◇活動内容とその成果

入門編の動画を作成し、人事課と連携しながら、令和4年度本市の人権研修のコンテンツに新しく追加し、令和4年5月からの市職員の人権研修として実施する部局で活用した。また、市長や副市長をはじめ、全庁の部課長会議でも研修について説明を行い、入門編（こころの健康とコミュニケーションのポイント、20分、オンデマンド配信）は全市職員対象の研修となった。令和4年7月1日～令和5年3月

活動成果報告書

1日までを受講期間とし、現在配信中である。研修はPC端末がない職員へ配慮し、当課のYouTube（限定公開）に動画をアップし、またアンケートも同様に回答しやすいよう作成した。

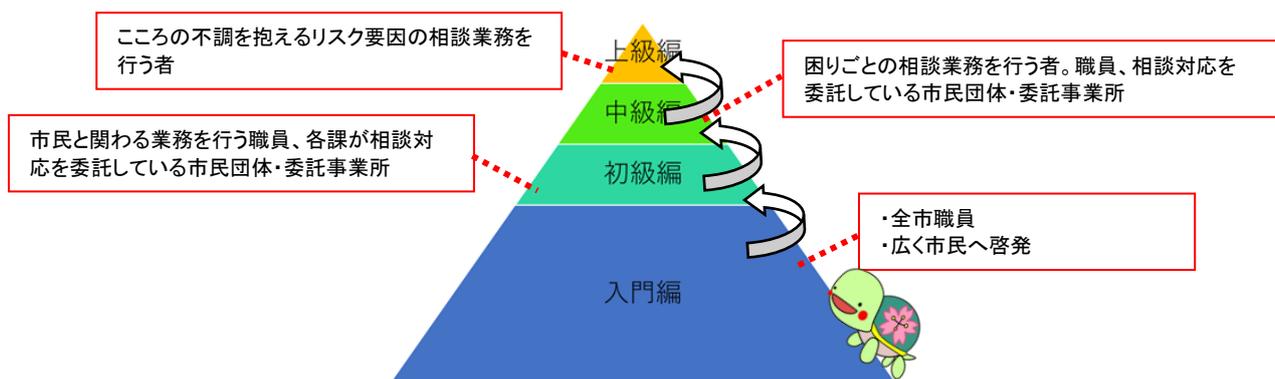
更に市民相談対応の内容に合わせたステップアップ研修として、初級編、中級編、上級編の内容を用意した。各研修の対象者の把握、また研修への理解を得る目的で全庁内部局へ照会を行い、88.1%の回答を得た。

ステップアップ研修の対象者は1,314人で、初級104人・中級200人・上級1,010人であった。また、市が業務を委託している機関の研修対象者は2,252人、市民は350人という回答だった。

【こころのサポーターとよなか研修（入門編～上級編まで）対象者】

- ①市職員：約5200人（入門編は雇用形態、職種問わず全職員受講）
- ②相談窓口となりうる市委託業者（市医師会、市歯科医師会、市薬剤師会、訪問看護ステーション、社会福祉協議会、地域包括支援センター職員、障害者相談支援センター・相談支援専門員等）
- ③相談窓口となりうる市民（身体障害者福祉会、子どもの居場所関係団体など）
- ④希望する市民

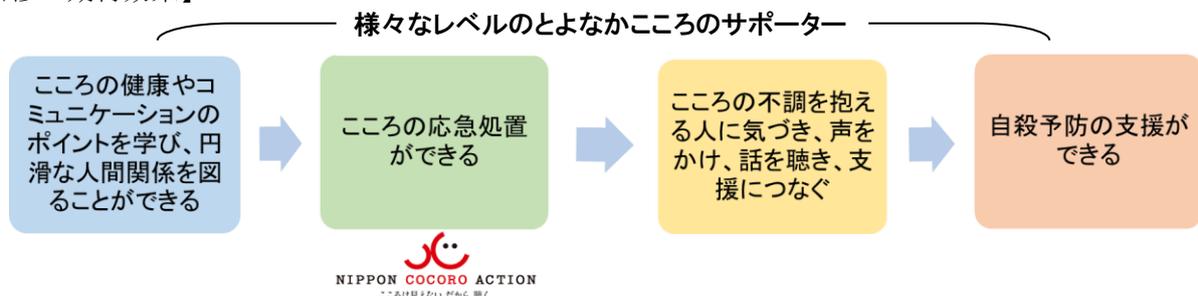
とよなかこころサポプロジェクト研修イメージ



【研修内容】

入門編	初級	中級	上級
<ul style="list-style-type: none"> 「知って守ろう！こころの健康」こころの健康、ストレス対処法、コミュニケーションのポイントを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「心のサポーター養成事業」こころの健康、傾聴技法、セルフケアを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ゲートキーパー養成研修」ゲートキーパーについて学び、ロールプレイを通し、スキルを身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ゲートキーパースキル研修」ワークショップで自殺リスクのアセスメントができる等のスキルを身につける。

【研修の期待効果】



*初級編は厚生労働省の心のサポーター養成事業のモデル事業として、本市は令和4年10月より実施。モデル事業のため、アンケート調査や成果等のとりまとめは厚生労働省が実施。

活動成果報告書

【令和4年度研修実績】＊令和5年1月20日現在

	入門編	初級編	中級編	上級編
研修所要時間/回	20分	2時間半	2時間	一日
研修方法	オンデマンド	オンライン	集合型	集合型
回数	-	11回	(2月予定)	1回
受講者数	2,974人	348人	24人予定	18人

全市職員対象の入門編研修は令和5年1月20日現在2,974人が受講をしていた。アンケートでは「理解できた」「やや理解できた」が99%。内容が「非常に役に立つ」「役に立つと思う」95%であった。

初級編のアンケートはモデル事業の効果測定のため、厚生労働省が取りまとめることから現在内容は不明。しかし、市役所内でPC端末が十分に確保できていない状況下であるにもかかわらず、市の約半数の部署（課）60か所からの参加があった。

上級編のアンケートでは「理解できた」が94%、内容が「役に立つ」は100%であった。また「自殺のサインに気づいた後の初期介入の流れを学べたのでケースワークの中に取り入れたい。」「知識として得た内容をロールプレイを通して修得することが出来た」等さまざまな感想があった。

◇今後の計画

令和4年度は市職員向けに全ての研修をおおよそ予定の対象者に実施できた。（図1）

入門編については、現在6割弱の受講者であるため、庁内でのお知らせ等で受講勧奨を行っていく。また令和4年度は内容が市職員向けであるため、令和5年度より広く市民や関係者に理解できるよう内容を改変し、動画編集を年度中に行い、ホームページ等様々な媒体や機会を狙って、周知を図る。

初級編については、オンラインだけでは受講が難しい市民や関係機関等も想定されるため、集合型でも実施ができるよう準備を行っていく必要がある。令和5年度以降、市民、事業所、全ての市職員のスキルアップが図れるよう、経年的な研修体系の計画、予算措置も検討する。また、取組みが広がるよう指導者の養成も行い、生きやすいまちづくりをめざす。

【図1 研修計画】

研修対象者	～令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
入門編（対象：全市職員5200人＋広く市民）	-	7月～全市職員向け研修、オンデマンド配信。市民向け動画を作成。	ホームページやYoutubeなどで市民等向けに配信		
初級編（対象：市民と関わる業務を行う職員、各課が相談対応を委託している市民団体・委託事業所約6600人→想定4200人）	大阪府版ゲートキーバースキル講座を初級者向けに再構成し実施	10月～厚生労働省心のサポーター養成事業職員向けオンライン研修30～60名×10回	・厚生労働省心のサポーター養成事業市民含めたオンライン研修60名×25回 ・市町村事業移行準備	心のサポーター指導者養成	心のサポーター指導者とともに開催
中級編（対象：困りごとの相談業務を行う者。職員、相談対応を委託している市民団体・委託事業所約4500人→想定1500人）	大阪府版ゲートキーバースキル講座を実施	庁内講師・出前講座として実施	初級受講者から抽出24名×20回	大阪府版ゲートキーバースキル指導者養成	大阪府版ゲートキーパー指導者とともに開催
上級編（対象：心の不調を抱えるリスク要因の相談業務を行う者、健康医療部・福祉部・くらし支援課・こども未来部等の職員約1000人→想定300人）	健康医療部・福祉部・くらし支援課に配属4・5年目職員研修、20人×1～2回実施 出前講座	対象を拡大し実施			

*研修対象者：対象は研修受講者数であるが、年間実施できる研修回数や1回当たりの受講者数に限りもあり、また本研修を受講した者が各所属で研修を展開できるよう指導者の養成も狙い、職階に絞った人数が想定者数。